

「ロッキーの卒業コンサート」

めでたくケア卒業が決まり、明日ここを出発するロッキー。今日はロッキーの卒業をお祝いするためのコンサートが開かれました。ロッキーが「世界に一つだけの花」を熱唱し、場が大盛り上がりした後、ロッキーから皆へのあいさつの言葉がありました。

ロッキー：

1ヶ月という短い間でしたが、人生経験にしたら30年分くらいの経験をさせていただきました（一同、爆笑）！本当に色々な出会いがあり、色々な学びがありました。失敗を失敗と思ったらその時点で終わりですが、その失敗を学びとして活かすことでそのことが生きる、ということ深く心で感じる事が出来ました。皆さんから人間としての姿勢を教えていただいたと思っています。今まで自分は本当にちっぽけなことで悩んでいましたが、人間として大きく成長することが出来たと思います。本当にありがとうございました！

みっちゃん（司会）：

ロッキーにメッセージがある人はどうぞ。

みこ（5才）：

よかったです♪ありがとうございました！

みかちゃん：

ロッキーとは畑と一緒に作業をすることがあり、ロッキーがなぜここに来たのか、挫折の経験を話してくれたことがありました。まだ18年の人生だけれど（笑）、その中では順風万帆だった時に友人関係のトラブルがあつて心の病になった。その時に、「ロッキー、それって人生のスパイスだね」という話をしていたのを思い出しました。順風万帆で行くよりも色々な味を楽しめ、失敗の奥に隠された宝物を味わえたのなら、この先もきっと人生に起こる色々なことを受け止められるのだと思います。

いさおちゃん：

僕は一緒に部屋で色々な話をさせてもらい、最初から驚きの連続でした。話をされていて、ロッキーの飲み込みが早かったり、皆のことを鋭い視点で観察していたり、本当に驚きでした。こちらの方が沢山学ばせてもらったと思っています。ロッキーがこの先何をするかが本当に楽しみです。ぜひ経過を報告してもらえればと思います。

ひろっち：

僕はロッキーと作業が一緒になることはほとんどなく、そんなに沢山話をしたわけではないけれど、ロッキーを観ている、病気でここに来た人というよりは、ロッキーがこの生活を楽しんでいるように感じていました。卒業しても、ここがロッキーにとって心の拠り所にな

ったらいいなと思います。

りゅうと（小4）：

お別れは寂しいけれど、また遊びに来てね。一緒にサッカーやろうね！

ちなっぴ：

今日は、「一番最後にやぎさんのお世話がしたい」ということで、一緒にやぎさんのお世話をしてきました。「ああ、もう仕事が終わっちゃう！」とすごく名残惜しそうに最後の仕事を終えていました。ここを実家だと思って、いつでも帰って来て下さい！

まっちゃん：

すごく嬉しいです。本当に将来が楽しみです！行ってらっしゃい！

あいちゃん：

卒業おめでとうございます。ロッキーとは1ヶ月しか一緒にいなかったのに、もう何年も一緒にいるような気がしています。時には友達だったり、親子だったり、楽しい1ヶ月を過ごすことが出来ました。ロッキーはナスの南蛮漬けが大好きということで、今日もナスの南蛮漬けをどんぶり一杯食べていただきましたが、満足出来たかな（一同、笑）？

ロッキー：

はい！

あいちゃん：

これからも不安がらないで、ここで生活したことを活かして行っていただけたらいいなと思います。またすぐ会いたいです。行ってらっしゃい！

ようこ：

私はロッキーといさどんとの面談にいつも同席してしていました。ロッキーへのおみやげとして、全ての面談をテープ起こしした原稿をロッキーに渡しました。テープ起こしをする作業は、ロッキー自身やご両親さえも気づかなかった彼の個性が徐々に花開いていく様子を再体験することが出来、とても楽しい時間でした。色々な人がここを卒業していく中で、ロッキーの存在はみんなにとっても良い刺激になったし、ロッキー自身にとっても良い経験になったと聞いて、ケア担当冥利につきると思っています。本当にありがとうございました。

ちなっぴ：

本人も、「いつもいさどんにほめてもらっているんですけど、いいんですか？」と言っていたので、「いいんだよ」と答えました（笑）。

みっちゃん：

では、最後にいさどんからお願いします。

いさどん：

良い卒業式に出会い、とても嬉しく思います。最初の面談でお父さんとお母さんの話を聞いた時、「お二人は息子の可能性にまだ気づいていない」と思いました。彼は病気というよりも、本当の自分に気づきさえすればいい。ここでの滞在は、本当の意味での自分の生き方に目覚める期間だと思いました。彼はちょっとうつ的な傾向もあってお医者さんにかかっていたのですが、僕の目的は彼を治すということではありませんでした。本当の自分に気づいて、自分らしく生きる。彼が滞在中に2回歌ってくれた、「世界に一つだけの花」ということだと思います。

個性的に生きて人にも自分にも貢献出来る人は数少ないですが、それに気づいていくことは世の中にも大切なことです。彼と面談を重ねていくうちに、「この人は将来大切な生き方をする。きっとここの人たちのような、人のためになる生き方をする。もしかしたら、将来私たちと連携していくこともあるだろう」と思い、僕の中で色々な想いが膨らみました。ロッキーは、「ほめられてばかりでいいのだろうか？」と言いましたが、「まだ見ぬ自分がいる」ということを伝えることが僕の役割だったと思っています。

というわけで、大変学びの多いケア期間でした。ロッキーの場合は、ケア期間というよりも、目覚めの期間だったと思います。そして、本当の意味で自分の人生をこれから歩いていくのだと思います。人生が順風万帆に過ぎていったとしても、自分らしい大事に気づいていく時には挫折があってもいい。それが自分の本当の花を开花させることになるのだということでもあります。

世のため人のために生きていってもらいたいと思います。18歳の人にこういうことを伝えられる機会はなかなかありません(笑)。

卒業式にはいつも思うのですが、「おめでとう」と同時に、こちらも良い出会いだったということで感謝の言葉を言います。ロッキー、本当にありがとう！おめでとうございます。

--

子供から大人まで皆の人気者で、ここを去るのを本当に惜しまれながら卒業していったロッキー。ここを出発する際、お母さんは、「皆の前で元気に歌を歌えるまでに回復してくれて本当に嬉しいです」と涙ぐまれていました。ロッキーは、「前回の面談では『まだ不安がある』と話しましたが、今は『頑張っていこう』という気持ちになりました。これも皆さんのおかげです」と話してくれました。

ロッキー、いってらっしゃい！ロッキーらしい花が咲き誇るのを皆で応援しています。